夢は「地域と子どもの未来を創造」

NPO法人「未来」の事例

元気良くスタートする未来ウオーク参加者（第1回）

「地域と子どもの未来を創造」を基本理念に活動するNPO法人未来（岸田寛昭理事長）。地域が元気になる仕組みを企画・実施し、幅広く活動の輪を広げている。

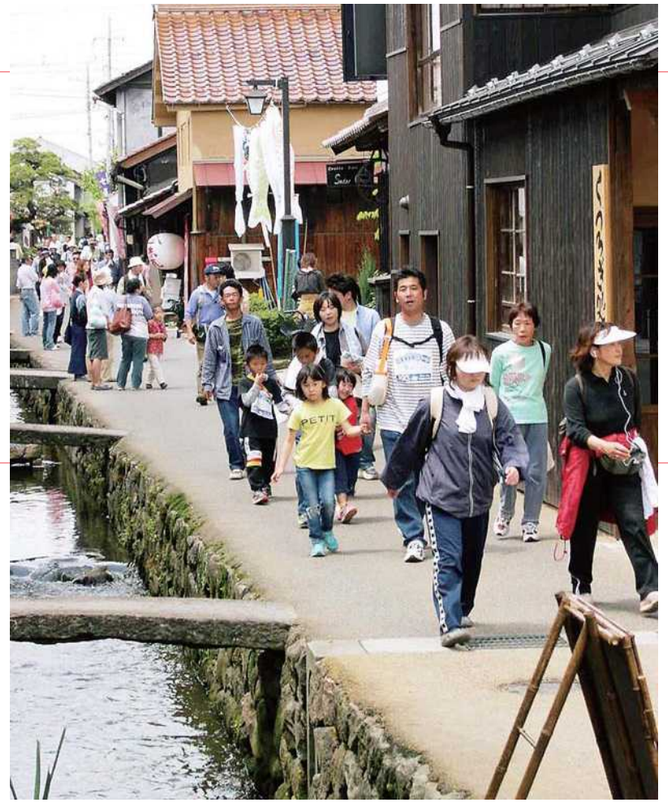
■ウオーキングで地域を元気に

同NPOの原点は地元のPTA会長の集まり。「子どもたちの『地元には何もない』という悲観的な考え」がいつも話題に上り、子どもたちに誇りと自信を持たせることが必要だと考えるようになり、そこで考え出されたのがウオーキングだった。2001年に初めての大会「くらよし未来ウオーク」を開催し

未来ウオークは参加者との触れ合いも魅力の一つ

たところ親子の参加が多く大好評。メンバーらはウオーキングを通じた親子の絆の再生、地域資源の再発見などの可能性を体感した。

翌年から「日本海未来ウオーク」として開催し、現在は1市4町全域を活用して実施。2013年の大会では2日間で韓国や全国各地から約3000人が参加。参加者の50%が県外者で経済効果にもつながっている。



白壁土蔵群周辺の街並みも楽しみながら歩く参加者

大会を支えるボランティアも高校生・大学生を中心に毎年500人以上が集まり、地域で支える大会になっている。

さらに、2004年に韓国国際ウオーキング大会と交流協約を締結。2009年には「ウオーキング立県とっとり」を提唱し、県・市町村と協働で各種事業を展開している。その結果、県内全市町村でのウオーキング大会の実現など活動は県全域に波及している。また、全日本ノルディック・ウオーク連盟鳥取県支部の設立、日本初のウオーキングカフェの開設、韓国とウオーキングを通じた交流などに発展している。

麻田雄一事務局長は「ウオーキングを通じた地域づくりや魅力発信は全国的に珍しく、地域の個性を創造できる素材だと確信している。都会の人に対しては移住先やウオーキング観光としての提案、県民に対しては歩く文化・健康づくりとして今後も勧めていきたい」と話す。

■第一に「社会的意義」

同NPOはウオーキング事業だけでなく、地元資源を活用したまちづくりや福祉事業など多岐にわたる。そして活動は同NPO主導のものばかりではなく、個々の会員がリーダーシップをとって取り組んでいる。「個々でリーダーになれるだけ

韓国からも参加者を迎え、交流を深めている

大勢の買い物客でにぎわう「とまり朝市」（サカナクワイ屋）

の人材がいて、その会員が自ら事業を発案し、仲間を集めて事業を実現させている」と麻田事務局長は説明する。

事業立案の骨組みとして、社会的意義、事業内容、協力者集めの三つが挙げられる。麻田事務局長は事業が成功する点として、第一に「社会的意義」を挙げる。「どんなイベントを企画するにしてもどんなものがベストか、やる必要があるかはとても重要。やりたいではなく、必要とされているかが大事。成功している事業はやはり〝社会的意義〟がきちんと伝わっているもの」と説明する。

■明確なミッション

２０１３年12月、湯梨浜町泊の泊漁港近くに「とまり朝市」（サカナクワイ屋）がオープンした。この事業は、地元の人とミッションを共有し、一緒になって3年以上掛けて開催にこぎつけたもの。会員の一人が中心となって奔走し、やりたいことが地元とも合致・協力し合い、その上で県と町からも協力を得られた事業だ。

現在、全国的に魚の消費量が落ちる一方で、子どもがいる親の多くは「肉より魚を食べさせたい」と考えている、という調査結果もまとまっている。これまでにも新鮮な海の幸を親子で採って食べて楽しむ「魚育イベント」など同ＮＰＯと地元漁業者と連携した催しが開催されており、泊港の漁業と地域活性化のために、継続的な朝市の開催を考え出した。

朝市では鮮魚や水産加工品、農産物などを販売している。地元住民のほか、遠方からの買い物客もあり、コミュニケーション創出の場にもなっている。4月からは毎週日曜日開催を予定している。

全国に広がった事業もある。「心のふれあいプロジェクト」がその一つで、同ＮＰＯから発信したものだ。赤ちゃんとその保護者と小・中・高校生がふれあう機会をつくる「赤ちゃん登校日」は、命の尊厳を学び、コミュニケーション能力を育む取り組みで、現在では全国の小中高校で実践されている。また、指導者の養成事業にも積極的に取り組んできた。

自分の住むまちを何とかしたい！。まちづくりについて話してもなかなか前に進まない現状に疑問を感じた地域の若手が立ち上がり、同ＮＰＯと連携した取り組み

魚について楽しく学ぶ子どもたち

「Ｄｅｅｐ　Ｉｍｐａｃｔ（ディープ・インパクト）」を始めた。このグループは自分のまちを変えるために自ら率先して行動するもの。最終目標はネットワークの形成だ。参加者は20～40代の若手経営者や起業希望者、まちづくりに対して意識が高い人など。その活動は農業や観光の振興から、ビジネスに結び付ける講座まで幅広い。現在抱えている問題やまちづくり、達成したい夢や目標を実践につなげる場として機能し、思い付いたことはすぐに実践した。そしてスキルアップも図るため、講師を招いた勉強会も重ねた。こうした動きはまちづくりにも新たな息吹を吹き込み、地域活性化の一助を担っている。

こうした動きはさらに発展を見せ、作り上げた横のつながりを活用し、２０１４年春から「どこでもドア」プロジェクトをスタート。狙いは、地域の各人が持っている専門的なスキルを子どもたちに無料で伝えること。具体的には職業体験や無料英語スクール、起業体験を計画している。

模擬授業で「赤ちゃん登校日」の指導方法を学ぶ受講生（左）

■行政との連携

行政とともに取り組む事業としては２０１２年から、倉吉市の「ふるさと納税」に対する贈呈品のコンサルティングや発送作業、情報発信の協働事業がある。その中で同ＮＰＯは、効果的にＰＲできるとして人気があるふるさと納税応援サイト「ふるさとチョイス」との橋渡し役を担った。その結果、倉吉市のふるさと納税が２０１２年は約２７０件だったのが、２０１３

年（1月末現在）には10倍の約2700件まで増加している。

■人材が育つ環境を

設立から10年を経過した同NPO。数々の事業を企画・実践してきたが全てが成功したわけではない。「ドラッカーも書いているが、NPOこそ〝顧客重視〟。誰のために、何のためにやるのか、それらが弱いと失敗する。例えばイベントをするとして、その開催場所のアクセス一つとっても同じことが言える。なぜそこで開催するのか、伝えたい内容を明確にして開催する。少しでも中途半端だと失敗する」と麻田事務局長は強調する。

社会には営利企業にも行政にもできないことがある。やらなければいけないことなのに、誰もやらないこと。この領域こそがNPOがモデル的に活動する場所だと考えている。麻田事務局長は「今後もNPO法人未来の思いに共感し、自ら進んで活動する仲間を増やしていきたいし、各会員がそれぞれ独自性を持って、活動できるような環境を整えていきたい」と話す。

やる気のある人が集い、ビジネスチャンスをつかもうと情報交換する「Deep Impact」

coup! la café
クラカフェ

中部12万活性化チーム
チュウブジュウニマン カッセイカチーム
鳥取中部ふるさと広域連合×NPO法人未来

こども農家
本当のおいしさを、こどもたちに。

SUN-IN
未来ウオーク
선인 미라이 워크

NPO法人 未来

〈概要〉●所在地:倉吉市上井320の11
JA鳥取中央河北支所2階
●代表者:岸田寛昭
●会員:約200人
TEL 0858-24-5725　FAX 0858-27-0101
ホームページ http://npo-mirai .net/public/

代表者のコメント

理事長　岸田寛昭さん

社会課題があって社会に必要なことなのに、その解決策が専門的で、かつ対価を得るモデルが未だ確立されていない領域。この領域こそがNPOがモデル的に活動する場所だと考えています。そしてモデル確立後は、地域内における次の実施団体などに事業を引き継ぐ。これがNPOの重要な役割だと考えています。このような社会的な存在意義や役割分担の必要性を多くの人に理解していただき、共助の風土を醸成していくことで「地域と子どもの未来を創造」を実現させていきたいと思っています。